

受験番号	UM
------	----

令和2年度 山梨大学医学部看護学科入学者選抜試験 問題用紙

小論文 I

【問】 次の文章を読んで、看護学生と A さんが体験した感情を 600 字以内で記述しなさい。

看護学生が初めて看護を体験する基礎実習に際しては、患者を共感的に理解することを目的として掲げている学校がほとんどではないでしょうか。そのため、学生は患者のことを「共感的に受け止めなくては」と躍起になっています。けれども、これほど頻繁に使われ、ほとんど看護のなかでは常套句と化しているにもかかわらず、その実体や意味するところは実にあいまいなのです。その結果でしょうか、たとえば、学生の記録には共感という言葉がこんなふうが登場することになります。

朝、挨拶にいくと A さんが機嫌よく「きのうお見舞いにきてくれた会社の同僚が『顔色がいい。ちっとも病気じゃないみたい』っていつてくれたのよ」とうれしそうに話してくださった。昨日の検査結果が前回より悪くなっていることに気が付いていないのかもしれない。心配だったが、A さんが「このごろ気分もいいし、うれしいわ」というので、「そうですね」と共感しておいた。・・・・・・・・

実は、A さんは末期癌に冒されていて、しかも告知されてはいなかったのです。学生は「共感」という言葉を、相手のいうことをそのまま肯定するという意味で使っています。その先を見てみましょう。

(中略)

共感は見に見える反応ではありません。ある関係のなかで、人がある感情を体験する、その内的体験そのものが共感です。共感の関係の様式といえます。したがって、「そうですね」と言う行為自体を共感と呼ぶのはおかしいことなのです。むしろ、共感はこの行為の背後に存在しています。

この章の初めに述べた、末期癌ということを知されていない患者 A さんを受け持った学生の事例に戻って見てみましょう。この学生は、記録には記されていませんが、A さんとの対話のなかで、さまざまな感情体験をしていることは誰の目にも明らかでした。

出典：武井麻子. 感情と看護 一人とのかかわりを職業とすることの意味―. 医学書院. 2001 年より抜粋.

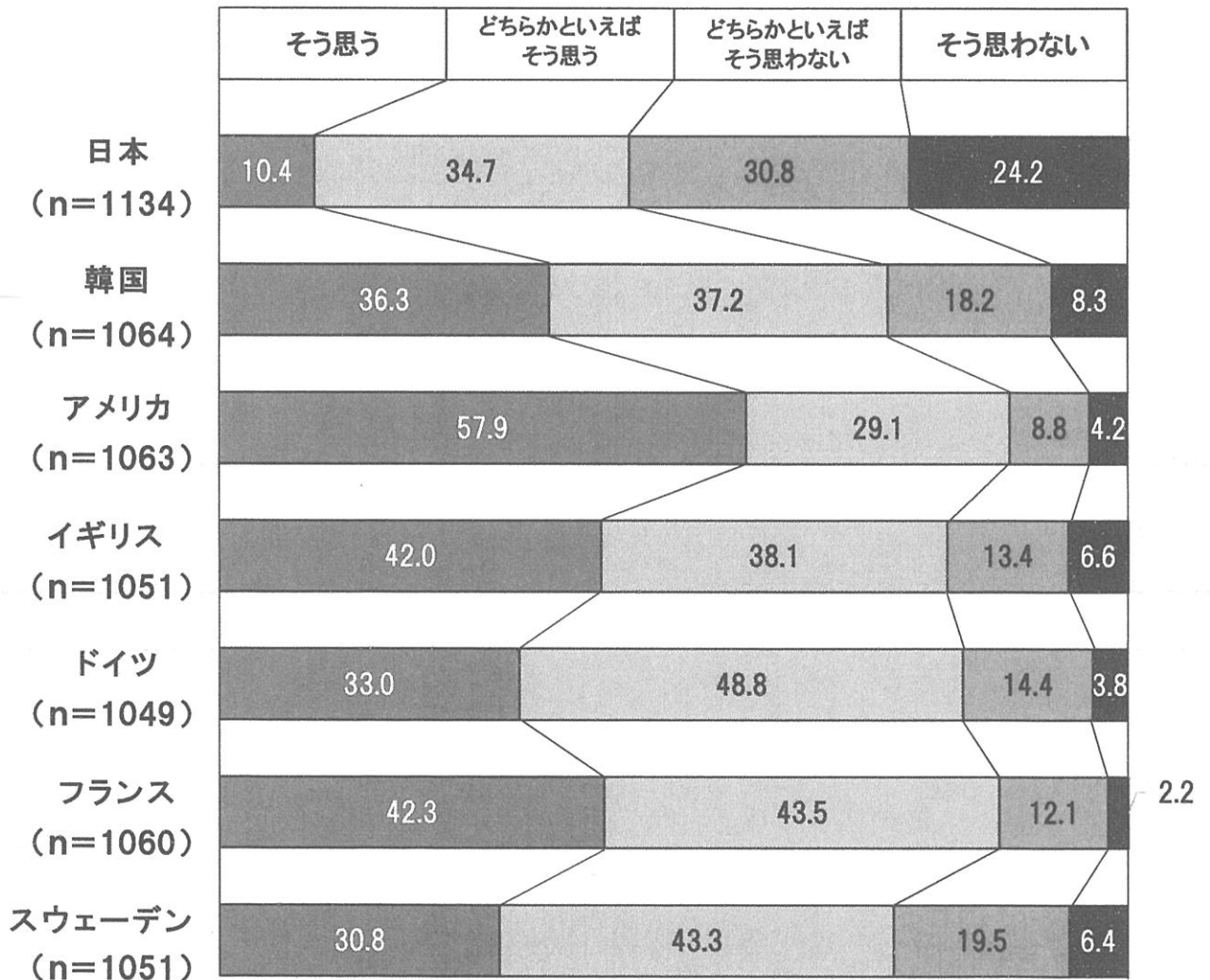
令和2年度 山梨大学医学部看護学科入学者選抜試験 問題用紙

小論文Ⅱ

【問】次の図は、内閣府が2018年に13～29歳の若者を対象に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」の結果の一部です。「私は、自分自身に満足している」の質問に対する、各国別の回答割合を示しています。

読み取った図の特徴と、それに対するあなたの考えを400字以内で記述しなさい。

図 私は、自分自身に満足している (%)



出典：内閣府政策統括官. 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）. 一部改変.

<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf/s2-1.pdf>（取得日 2019.12.23）

